

項目	観点	教科書名					
		New Horizon Elementary English Course (2・東書)	Junior Sunshine (9・開隆堂)	CROWN Jr. (15・三省堂)	ONE WORLD Smiles (17・教出)	Here We Go! (38・光村)	Blue Sky elementary (61・啓林館)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	<p>コミュニケーションを行う目的や場所、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力を養うために、どのような配慮がされているか。</p>	<p>・単元の冒頭に、単元の目標だけでなく、学習評価規準の3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に対応した目標をそれぞれ明示していることが特徴である。また、一単位時間ごとに、目標に対応する振り返りや自己評価をすることができるよう工夫されている。</p> <p>・中学年や中学校との接続が円滑にできるよう、学びを見通すことができるCAN-DOリストを示し、明確な到達点に向かって学習を進めることができるよう配慮されている。別冊「My Picture Dictionary」には、2年間の各単元の目標が明示された「CAN-DOの樹」のページ(p.42-43)があり、2年間の学びを見直し、振り返りながら、児童と教員が目標を共有することができるよう工夫されている。</p> <p>・Our Goal (クラス全体で設定された目的・場面・状況などを理解する)→Your Plan (児童一人ひとりが目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定する)→Your Goal (やり取りや発表活動を行う)→振り返り、という単元構成に工夫が見られる。また、単元は「Starting Out (単元の学習内容に慣れ親しむ)」「Your Turn (単元のゴール活動を見据えて、学習内容の定着を図る)」「Enjoy Communication (言語材料を振り返りながら内容を広げて、単元のゴール活動を行う)」「Over the Horizon (学習内容やテーマをもとに、視野を世界へと広げる)」の4つのパートから構成されている。コミュニケーションの目的・場面・状況が適切に設定され、見直しを持って活動に取り組む、スモールステップで活動を積み重ねながら、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるように配慮されている。</p> <p>・音声や文字への学習が円滑につながるような構成に工夫が見られる。英語をたっぷり聞き、何度も使ってみる活動「Let's Watch」「Let's Play」「Let's Listen」を経てから、「Let's Try」「Activity」などの実際に英語を使って考えや気持ちを伝え合う言語活動を行い、最後に自分のことを伝えるために、語句や表現を書き写す活動「Let's Write」ができるよう、単元構成に工夫が見られる。</p> <p>・英語圏で古くから伝わる童謡、オリジナルのチャンツを多く取り上げ、英語らしい音やリズムに慣れ親しむことができるよう配慮されている。また、音声で慣れ親しんだ英語と文字を結びつける活動「Let's Listen and Read」「Let's Read」が充実している。教科書巻末に特設ページ「Sounds and Letters」が設定され、「文字の名前」→「音」→「文」の順に、無理なく文字の音に慣れ親しませたり、音と綴りの関係に気付かせたりする工夫が見られる。</p> <p>・教科書巻末に「CAN-DO5年」「CAN-DOリスト6年」あり</p> <p>・付属「Word Book」、巻末付録「アルファベットカード、絵カード」</p>	<p>・単元の冒頭に、単元の目標を明示している。また、一単位時間ごとの目標も単元冒頭の見開きページに記述があり、見直しをもって単元の学習を進めることができるよう工夫されている。同様に、評価場面についても単元冒頭にマークで明確に示されており、単元で評価すべき領域と観点が一目で確認できるようにになっている。(例)【聞】知、【発】知、思</p> <p>・教科書巻末の「CAN-DOチェック5年」「CAN-DOチェック6年」では、学年ごとの目標について、各単元末で自己評価を行い、児童自身で「何ができるようになったか」を確かめることができる。自らの成長や課題に気付く、学習を調整する力や学習に見直しをもって主体的に学習に取り組む態度を育てることができるよう配慮されている。</p> <p>・単元で身に付けさせたい力を明確にして、単元終末の言語活動を設定する「バックワード・デザイン」で単元構成がされている。第1時から言語活動を積み重ね、単元のまとまりを通して、コミュニケーションを図る基礎と資質・能力の育成ができるよう工夫されている。</p> <p>・音声から文字への学習が円滑につながるような構成に工夫が見られる。英語をたっぷり聞き、何度も使ってみる活動「Let's Watch」「Let's Play」「Let's Listen」を経てから、「Let's Try」「Activity」などの実際に英語を使って考えや気持ちを伝え合う言語活動を行い、最後に自分のことを伝えるために、語句や表現を書き写す活動「Let's Write」ができるよう、単元構成に工夫が見られる。</p> <p>・英語圏で古くから伝わる童謡、オリジナルのチャンツを多く取り上げ、英語らしい音やリズムに慣れ親しむことができるよう配慮されている。また、音声で慣れ親しんだ英語と文字を結びつける活動「Let's Listen and Read」「Let's Read」が充実している。教科書巻末に特設ページ「Sounds and Letters」が設定され、「文字の名前」→「音」→「文」の順に、無理なく文字の音に慣れ親しませたり、音と綴りの関係に気付かせたりする工夫が見られる。</p> <p>・教科書巻末に「CAN-DO5年」「CAN-DOリスト6年」あり</p> <p>・付属「Word Book」、巻末付録「アルファベットカード、絵カード」</p>	<p>・単元の冒頭に、単元の目標を明示している。また、一単位時間ごとの目標も単元冒頭の見開きページに記述があり、見直しをもって単元の学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>・中学年や中学校との接続が円滑にできるよう、学びを見通すことができるCAN-DOリストを示し、明確な到達点に向かって学習を進めることができるよう配慮されている。別冊「My Dictionary」には、2年間の各単元の目標が明示された「英語でできること CAN-DO」のページ(p.44-45)があり、2年間の学びを見直し、振り返りながら、児童と教員が目標を共有することができるよう工夫されている。</p> <p>・単元終末の言語活動に向かって、見直しをもって学習活動に取り組むことができるように、単元計画が工夫されている。各単元はHOP→STEP→JUMPの3つのパートから構成されており、HOPで単元全体の学習を見通して自らの目標を設定し、STEPで言語活動に取り組みながら、語句や表現を身に付け、JUMPでは、学習した語句や表現を用いて、コミュニケーションの目的、場面、状況が適切に設定された単元終末の言語活動で、思考力・判断力を働かせながら表現することができるように配慮されている。話す【やり取り】活動を中心にしなが、単元に1回程度、巻末カードを使った書く活動が確保されている。</p> <p>・全ての単元にオリジナルチャンツを3種類用意。文字と音のつながりを学ぶ「Sound Chant」、活動で学ぶ語句を学ぶ「Word Chant」、表現ややり取りの仕方を学ぶ「Phrase Chant」を活用しながら、簡単な語句や基本的な表現に慣れ親しむことができる。</p> <p>・「ABC Fun Box2 (6年p.52)、ABC Fun Box3 (6年p.102)において、品詞ごとにカードが色分けされており、文構造への気付きを促す工夫が見られる。</p> <p>・別冊「My Dictionary」p.44-45にCAN-DOリストあり</p> <p>・別冊絵辞典「My Dictionary」</p>	<p>・単元の冒頭に単元の目標が確認できるよう配慮されている。単元末の「Lessonをふりかえろう」では、評価の3つの観点と対応した振り返り項目を明示し、児童自身で単元の振り返りができるよう工夫されている。</p> <p>・教科書扉に、1年間の学びを見通すことができる「学びのロードマップ(5年)」「学びのロードマップ(6年)」がある。中学年や中学校との接続が円滑にできるよう、配慮が見られる。単元末には、児童自身がCAN-DOチェックができるページがある。</p> <p>・単元の導入として、「Let's Watch」では映像を見る活動から入り、学習内容をイメージしやすい工夫が見られる。「Let's Listen」聞く活動、「Let's Say It Together」口慣らしの活動を経て、「Activity」で自分の考えや気持ちなどを伝え合う。単元の終末の言語活動「Final Activity」では、やり取り、発表などの総合的な発信活動が設定されている。</p> <p>・各単元末に「Sounds and Letters」が設定され、「文字の名前」→「音」→「文」の順に、無理なく文字の音に慣れ親しませたり、音と綴りの関係に気付かせたりする工夫が見られる。</p> <p>・文法用語を使わずに、日本語と英語の文構造の違いに気付かせる活動を設けている。付録の絵カードは、品詞ごとに色を分け、視覚的に品詞の違いを捉え、文構造への気付きを促す工夫が見られる。</p> <p>・CAN-DOリストなし</p> <p>・巻末付録「絵カード、ワークシート、My Book」</p>	<p>・単元の冒頭に、単元の目標を明示している。また、一単位時間ごとの目標も単元冒頭の見開きページに記述があり、見直しをもって単元の学習を進めることができるよう工夫されている。単元末の「ふりかえろう」では、単元の目標を明示し、自己評価をすることができるようになっている。</p> <p>・教科書扉に、「5年生でできるようになること」「6年生でできるようになること」がある。各領域ごとに到達すべき目標を明示し、自己評価ができるようになっている。</p> <p>・互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図るため、単元終末の言語活動において、「誰に何のために伝えるのか」という視点を大切に、コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にしている。</p> <p>・「HOP」で単元の目標を確認し、「Step」で聞く活動、チャンツでの口慣らし、話す活動、書く活言語活動に取り組む。「Jump」では、単元の重点化領域に取り組む、これまで慣れ親しんだ語句や表現を活用する言語活動を行う。豊かなインプットから少しずつアウトプットに進む単元構成に工夫が見られる。</p> <p>・単元終末の言語活動をより充実させるため、「Small Talk」では既習表現を何度も耳にしたり、口にしたりする機会を設けている。</p> <p>・「Plus One」では、既習事項を別の相手に伝えたり、更に詳しく相手に尋ねたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力を育み、会話を続ける力を育むことができるよう配慮がされている。</p> <p>・文構造への気付きを促す特設ページ「文の組み立て(6年p.60)」が設けられている。</p> <p>・教科書扉にCAN-DOリスト「5年生でできるようになること」「6年生でできるようになること」あり</p> <p>・別冊絵辞典「Picture Dictionary」⑤⑥(各学年1冊ずつ)</p>	<p>・単元の冒頭に、単元の目標を明示している。また、一単位時間ごとの目標も単元冒頭の見開きページに記述があり、見直しをもって単元の学習を進めることができるよう工夫されている。単元末の「Look Back」では、単元の学習を振り返り、単元の目標に応じた評価項目にチェックマークを入れることができるようになっている。</p> <p>・教科書巻末に、「Can-Do-List できるようになったことリスト」がある。各領域ごとに到達すべき目標を明示し、自己評価ができるようになっている。</p> <p>・イラストについて聞いたり、話したりすることで言語の使用場面に出会う「Introduction」、アニメーションを見て、コミュニケーションの場面や話の内容を想像することができる「Watch the Scene」を経てから、簡単なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や基本的な表現に慣れ親しむことができるよう単元構成が工夫されている。単元終末の言語活動「Activity」では、簡単な語句や基本的な表現をコミュニケーションの中で活用することができるように配慮されている。</p> <p>・各単元末に「Let's Read and Write」が設定され、英語の発音と綴りの関係について気付くことができるよう、十分な量の単語が扱われている。</p> <p>・「Pre Unit」では、単語カードの品詞ごとに色を分け、視覚的に品詞の違いを捉え、文構造への気付きを促す工夫が見られる。</p> <p>・教科書巻末にCAN-DO「できるようになったことリスト(5年)」「できるようになったことリスト(6年)」がある。</p> <p>・巻末付録「絵カード、会話を楽しむフレーズ集」</p>

2 内容の程度及び取扱いについて	<p>主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。</p>	<p>①題材について(世界の食文化、観光等、背景にある文化への理解を通した言語活動をもうけるなど、見方・考え方を働かせる工夫) ②6年生巻末:中学校内容に触れる場・円滑な接続への工夫 ③単元について(全てUnitで表記しており、大きな狙いでまとめられている。) ④その他 ・単元の課題について:ねらいのみ記載 ・各Unitの最後に、「Over the Horizon」として、世界へ目を向けるページがある。 ・書き込むスペースが、広く、大きく取ってある。(ノートと一体型)教科書のページ数が少ない ・一つのユニットに、友だちと行う表現活動が含まれている。 ・別冊(単語帳)「My Picture Dictionary」には、「CanDo リスト」があり、自身で定着度合いが確認でき、次の目標が明確になる。また、自分が使いたい単語を加えることもできる。 ・目次より:ユニットを3つのテーマに分けている。(自分、地域、日本)5年生</p>	<p>①題材について(異文化情報を取り上げ、多様な価値観への気付き、理解を深める活動の設定など見方・考え方を働かせる工夫) ②絵辞典:中学校で用いる語句の紹介など、円滑な接続への工夫 ③単元について(「Lesson」で統一) ④その他 ・単元の課題について:ねらいのみ記載 ・教科書に「Can Doリスト」があり、各レッスンの学習内容について「分かる」「使える」に分かれた評価があり、次につながる振り返りになっている。 ・「Activity」の活動内容が、具体的に示されており、ペア、グループ、全体など、様々なコミュニケーションの場面で設定されている。 ・別冊(単語帳)「Word Book」があるため、自身で表現に困ったときすぐに確認できる。</p>	<p>①題材について(世界に目を向けたり、自国文化の良さの発信する活動をもうけるなど、見方・考え方を深める工夫) ②6年生巻末:中学校の学習につながる既習事項の振り返りを設け、円滑に接続できる工夫 ③単元について(Unitの中に、Lessonで分けている。) ④その他 ・単元の課題について:ねらいのみ記載 ・「Let's Talk」で友だちに伝えた内容を、その後、書く活動としているところは、振り返り、表現の再確認になる。 ・教科書の書き方がすっきりしており(余白があり)、見やすい。 ・別冊(単語帳)「My dictionary」があり、単語の意味確認等も、スムーズにできる。</p>	<p>①題材について(世界の子供達の生活に触れ、異文化への関心を高めるような活動を設定するなど、見方・考え方を働かせる工夫) ②6年生巻末:週学校学習に生かす「My Book」の作成により、円滑な接続の工夫 ③単元について(Lessonで単元は統一) ④その他 ・単元の課題について:ねらいのみ記載 ・登場人物に「車椅子の少年」もあり、多様性に配慮している。 ・5学年では、友だちとの会話練習が多くもうけられている。また、6学年は、友だちとの会話をを行い、その場で記録するスペースがある。また、プレゼンテーションの機会として、全体で発表する活動、それを聞く活動が含まれている。 ・一つのLessonに複数の「Activity」が含まれているが、各「Activity」ごとにQRコードがあり、確認したい英文だけを聞くことができる。また、比較的ゆとりがあるので、確認、聞き取りやすい。 ・単語集なし</p>	<p>①題材について(世界の子供達の生活から多様な価値観に触れ、自国の文化の良さを発信する活動の設定など、見方・考え方を働かせる工夫) ②6年生巻末:中学校学習内容に触れる場を設け、円滑な接続への工夫 ③単元について(Unitに統一して、それを「自分、身の回りの人、地域」と分けてある。) ④その他 ・単元の課題について:「～するために、何をして～することができる」という書き方で、ねらい、手立て等、単元のGoalが示されている。(P51) ・付けたい力と振り返りが示されているため、自身の課題が明確になる。 ・友だちやグループでの会話の後、自分の行ったことや友だちから聞いたことを書く活動があり、更に、それを読む活動へと進め定着を図っている。 ・Let's Tryが、「〇人と伝え合おう」など、具体的な指示になっている。また、Let's speakでは、「世界、ALTに向けて紹介しよう」などの具体的な指示となっており、明確な相手、プレゼンテーションの意識などを育てる活動が含まれている。 ・別冊(単語帳)「PicutreDictionary」が、教科書に納めることも、取り外せる事もできる工夫がある。 ・巻末に付録シートとして、会話で使えるフレーズ「心が通う受け答え」がある。5、6年生で異なる表現もある。 ・巻頭には、「コミュニケーションのポイント」が掲載されている。5、6年統一内容、学年に応じた内容がある。</p>	<p>①題材について(世界の多様な文化、考え方を理解できる言語活動の設定、自国文化の良さを発信する活動など、見方・考え方を働かせる工夫) ②各単元末に音声と文字をつなぐ活動を設け、円滑に接続できる工夫 ③単元について(Unitで統一) ④その他 ・単元の課題について:「ねらいのみ記載 ・教科書(見開き部分)に、「コミュニケーションに大切なこと」として、示されているページは有効である。 ・教科書に、「Word List」が掲載されている。イラストも入れて入っているため、自身で確かめやすい。また、Can Doリストも掲載しており、自身の振り返りができる。 ・「Activity」として、QRコードを読み、伝えたいことを自分で作り、音声で確認でき、反復練習できるため、主体的に学び安心して対話ができることにつながる。 ・「Activity」には、「Word List」のどこを見れば良いが記載されており、しっかりとリンクしているため、自身で確認が出来る。 ・「Activity」のねらいが明確(具体的に)示されている。また、活動の仕方が、分かるような活動の場面絵、写真が掲載されている。 ・各活動ごとにQRコードがあるため、必要な部分の表現だけを確認できる。 ・巻末に付録シートとして、「会話を楽しむフレーズ集(切り離し可)」がある。5、6年生同じ物を使用しており、継続して活用できる。 ・巻頭には「コミュニケーションに大切なこと」が、5、6年生同様の内容が掲載されており、継続して伝えたいこと、意識化が図られている。</p>
3 内容の配列・分量	<p>教材の配列、分量には、どのような特色があるか。</p>	<p>○初めに、Let's startのページがあるので、3・4年生の外国語活動から、スムーズにつながる。 ○それぞれのUnitのゴールの活動を映像で確認することで、ゴールのイメージがわかりやすい。 ○文字の学習が、Unitの最後に位置しているため、段階的に習熟することができるよう工夫されている。書くスペースが大きく、書きやすい。 ○3つのUnitごとに、Check Your Stepという、パフォーマンス評価に適した活動が設定されていて、評価しやすい。 ○5年生では身近なことから始まり、6年生では、世界に目を向けたテーマを取り扱っている。また、児童の興味・関心に沿ったテーマを取り扱っている。 6年生の巻末に「Going to Junior High School」を設けてあり、中学校での学習内容を想像できるようになっている。 ★デジタル教科書 ⇒個別最適な学習に対応している。 ◇年間70時間</p>	<p>○初めに、3・4年の復習やクラスルームイングリッシュをのせたページがあり、導入に最適。 ○それぞれのUnitごとに単元のゴールが示されているので、「ゴールの活動のために必要な技能」を考えながら授業に取り組むことができるようになっている。 ○文字の学習ページが、Unitの最後に配置されているため、スムーズに取り組める。文字指導の活動Sounds and Lettersを設け、大文字・小文字の学習をスモールステップで取り組めるよう工夫してある ○単元のゴールとして設定されている活動は、自分のことを紹介する活動が多い傾向。LessonごとにAround the world(海外の人々の生活などを動画で知る)が配置されており異文化について知ることができる。 ◇年間64時間</p>	<p>○初めに全学年までの復習のページがある。 ○UnitはHOP、STEP、JUMPで構成されている。HOPではUnit全体の流れとゴールを確認して自らの目標を立てられるようになっている。STEPでは語句や表現をスモールステップで学習できるようになっている。 ○2・3Lessonごとに「JUMP」という、そこまでの学習内容を生かしてする学習活動が設定されている。パフォーマンス評価に使える。 ○文字の学習を扱うページでは、音声と結び付けて学習できるような工夫がある。 ○身近なことから始まり、児童の興味・関心を意識した題材や話題を多く扱っている。「自分のことを紹介しよう」といったテーマで構成されている傾向がある。学期に1回ほどのペースで、Hello World!というページがあり、異文化について知ることができる。 ◇年間70時間</p>	<p>○初めに、クラスルームイングリッシュや復習のページがある。 ○Lessonは、映像を見ながら「聞くこと」を通したインプットから始まり、音声のみでの「聞くこと」、歌やリズムに合わせた口慣らしを通して表現に慣れ親しむこと、学んだ表現を使った簡単な「やり取り」を経て、最終活動で「話すこと」[やり取り・発表]というアウトプットへと展開する構成になっている。 ○Lessonの最後にFinal Activityという活動が設定されており、単元のゴールが意識できるよう工夫されている。 ○単元の最後に文字の学習と、Lessonの復習ページがあり、使いやすい。 ○5年生では身近なことから始まり、6年生では、「海外の友達に伝えよう」や「夢の世界ツアーを紹介しよう」など海外に目を向けたものになっている。 ◇5年:年間67時間 6年:年間62時間</p>	<p>○初めに、Let's Startとして、「いつも大切なこと」、「3・4年の復習」、「アルファベット」が用意されている。ローマ字と英語の表記の違いなどにも触れている。 ○それぞれのUnitごとに単元のゴールが示されているので、「ゴールの活動のために必要な技能」を考えながら授業に取り組むことができるようになっている。 ○各UnitはHop!→Step 1→Step 2→Jump!という構成になっている。基礎的な知識・技能の習得と活用から思考力・判断力・表現力を養う言語活動へといった学習の手順がわかりやすくなっている。 ○数Unitごとに、「まとめ」として、パフォーマンス課題が用意されている。 ○文字の学習ページが充実している。(ゲーム性もある。) ○学習のテーマや目標が示されている。5年は自分、他者、地域、6年は日本、世界、将来という段階的なテーマで構成されている。5・6年共に、海外に目を向けたテーマが入っている。 ★学習者用デジタル教科書 全児童配付 ◇年間70時間</p>	<p>○初めに、「コミュニケーションに大切なこと」として、発表・やり取りに分けてコミュニケーションのポイントを示している。また、4年生までの復習を「Pre Unit」として短い単元としている。 ○それぞれのUnitごとに単元のゴールが示されている。 ○学年3か所に設けられたREVIEWでは、学期末のパフォーマンステストを意識したTryが設定され、思考力・判断力・表現力がはかれるようになっている。 ○Unitの最後に文字の学習ページが配置されている。 ○5年生では身近なことから表現し、6年生では身の回りのことをもう少し詳しく調べたり、身の回りから少し離れたことを知ったりする内容を多く扱っている。 ★学習者用デジタル教科書 無償給与版あり ◇5年:年間64時間 6年:年間65時間</p>

4 表記・体裁	<p>用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。</p>	<p>・教科書A4サイズ          ・英語日本語ともに視認性の高いUD書体を使用している。          ・視覚的に優しい明るい配色にしている。          ・書く学習では、大文字より多く使用する小文字に配慮し、第2線と3線の間の幅をやや広げ書きやすくしている。第3線の基線は青色ではっきり示している。アルファベット学習初期ではモデル字を左利きの児童にも見えるよう配置している。文字理解の苦手な児童のため文字の形によるグループ分けをしたり、イラストから文字の形を連想できる映像「Letter Images」を掲載したりしている。(5年P16・17、P36・37)          ・各Unitの導入「Starting Out」でアニメーションを掲載し児童が意欲を高め楽しみながら学習できるよう工夫している。          ・様々な国や人種を取り上げ、登場人物の性別や服装、身体的な特徴などに偏りが出ないように配慮している。(6年P24・36他)          ・各Unitに二次元コードが多く掲載され、歌・モデル映像・資料映像・文字指導・物語など多彩な授業支援ツールを活用できるよう工夫している。          ・5年の各Unitの発展学習「Over the Horizon」では「文化探検」「日本探検」として写真や映像を掲載し、日本文化・異文化理解を深められるようにしている。(5年P14・P15 P24・25他)          ・6年では、特にSDGsを意識した学習内容があり、Unit6では環境問題にふれ、児童が今日的課題に目を向けるよう写真や映像などの資料を活用できるようにしている。(6年P60～71)</p>	<p>・教科書A4サイズ          ・英語は大文字小文字の学習がしやすいオリジナルの手書き書体を開発し使用している。一文字の形だけでなく、単語でも文字のまとまりが捉えやすいデザインにしている。日本語も視認性の高いUD書体を使用している。児童が視覚的に読みやすいよう、1行あたりの文字数や改行を工夫している。また日本の人物名の漢字にはふりがなを付けている。          ・色覚の多様性にも配慮し、見分けやすい色彩、やさしく明るい配色にしている。          ・書く学習では、第2線と第3線の間の幅を広くし、書きやすくしている。第3線の基線は水色を使用し、鉛筆書きした線がはっきり見えるようにしている。文字の始点と終点を●○で明示している。文字の書き方や形で文字をグループ分けをしている。(5年P112～119)          ・多様性を意識した登場人物の設定をしている。(5年P6年P12)          ・単元末の「Around the World」や、年3回単元のまとまりにある「Our World」では、単元の題材に関連した世界各国の文化や生活を取り上げ、写真や動画を掲載し、異文化理解を深める工夫をしている。(5年P32・48・49他、6年P32・48・49他)          ・5年「StoryTime」では、日本各地の名所や名産について写真や動画で紹介し、自国理解を深めるよう工夫している。(5年P33・59他)          ・6年「StoryTime」はSDGsをテーマに設定し、世界の同世代の子どもたちの生活について、目標マークとともに、写真や動画で紹介し、SDGsへの意識を高めるようにしている。(6年P43・59他)</p>	<p>・教科書A4サイズ          ・書く学習の二本となる専用の手書きフォントを使用している。          ・視覚への刺激が少ない、淡い色使いにしたり、情報を的確につかめるように囲みや罫線、白地などが工夫したりしている。          ・書く学習では、見本を書く欄のすぐ上に配置し、児童が視写しやすいよう工夫している。第3線の基線は青色ではっきり示している。          ・多様性を意識した登場人物の設定をしている。(5年6年P3)          ・単元導入の「STEP」では見開きイラストの中に、単元で出会う語句や表現を入れ、表現を使う場面や目的に児童が自然と入れるよう工夫されている。(5年P12・13他)          ・「Hello, World」では、世界の祭り、スポーツ、仕事などについて写真に詳しく説明を付けて、異文化理解を深める工夫をしている。(5年P50・51、6年P20・21他)          ・欄外に「ミニ情報」欄を設け、英語の書き方のヒントや話題にのぼった事柄の背景知識などを紹介している。(5年6年P15・17他)          ・「Let's」では、活動の手順を文字でも認識できるように、二次元コードで活動手順の例を提供し、児童が見通しをもって学習できるよう工夫している。</p>	<p>・教科書縦B5横A4サイズ          ・英語日本語ともに視認性、可読性の高いUD書体を使用している。書く時のアルファベットに近い形状の書体を使用している。          ・色覚の特性を踏まえ、色の組み合わせや濃淡、罫線や記号の補助等に配慮している。          ・書く学習では、4線は4:5:4の比率幅を採用し、書く練習をしやすくしている。第3線の基線は青色を使用しはっきり示している。アルファベット学習では、筆順を番号で明示した手本を見ながらできるように構成している。          ・身障者や高齢者等多様性に配慮したイラストを掲載している。(5年P12・13・52・53)          ・5年導入「Let's Start Together」では、外国語活動からの接続を意識し、文字や説明を少なくし、見開きイラストを活用しながら楽しく学習できるようにしている。(5年P6～11)          ・5年6年それぞれに「名所・名物マップ」を見開き3ページで掲載し、地図、イラスト、写真を組み合わせて、意欲を高め、楽しく学習できるようにしている。(5年P66～69 6年P56～59)          ・「Activity」や「Final Activity」では、活動内容やワークシートの使い方について児童がイメージしやすいよう、イラストや動画を提示している。(5年P58・59他)          ・SDGsを意識し、関連する目標マークを掲載している。(5年P41・87 6年P41・98)</p>	<p>・教科書縦B5横A4サイズ          ・特別支援への配慮を重視した視認性、可読性の高いオリジナルの英語の書体を独自に開発し使用している。自社発行の国語教科書の書体を使用し、アルファベットやローマ字学習との連携を図っている。日本語もUD書体を使用し、弱視の児童にも配慮したフォントを使用している。当該学年以上の漢字にはすべてふりがなを付けている。          ・色覚特性のある児童にも学習しやすい色使いに配慮している。          ・書く学習では、第2線と第3線の間の幅をやや広くし、水色で色づけすることで児童が意識できるようにしている。第3線の基線は水色で示している。アルファベット学習では、筆順を番号で明示した手本を見ながらできるように構成している。          ・多様性を意識した登場人物を設定し、Unitの「Hop」と「Step」にストーリー性のあるアニメーションを提示し、学習意欲や関心を高められるようにしている。(5年P3・17他)          ・「Jump」では活動場面のモデル動画、写真、作成資料を掲載し、児童が活動内容をイメージしやすいよう工夫している。(5年P65他)          ・各学年3カ所にある「まとめ」では、世界の子ども達の様子を豊富な写真と説明で紹介し異文化理解を深める工夫をしている。(5年P44・45 6年P48・49)          ・SDGsを意識し関連する目標マークを掲載している。(5年P42・74 6年P58・96他)</p>	<p>・教科書A4サイズ          ・日本語英語ともに視認性、可読性の高いUDデジタル教科書を使用している。          ・色の識別にも配慮し、色と文字の説明を組み合わせたリ、グラフ等色が隣接する所は白線による縁取りで見やすくしたりしている。          ・書く学習に使用する4線は、大文字と小文字の学習に適した5:6:5の比率幅を採用し、基準の下から2つ目の線は色弱者に配慮した青色の少し太い線を使用している。アルファベット学習では、文字の形の特徴ごとにページを分けてまとめている。文字の始点を青点で示している。          ・登場する人物は服装や役割などジェンダーの固定概念をなくす配慮がある。(5年P32・33 6年P82・83)          ・Unit導入「Watch the Scene」では言語材料の使用場面やゴールをアニメーションで提示している。(5年P32・33他)          ・「Activity」では実際に活動している写真や作成資料を掲載するなど、児童が活動内容をイメージできるよう工夫している。(5年P19・29他)          ・「Did you know? プラス」では、世界の子どもたちや文化の様子を写真や映像で紹介し、異文化理解を深める工夫をしている。(5年P44・45 6年P48・49)          ・SDGsを意識し関連する目標マークを掲載している。(5年P45・103 6年 P49)</p>
---------	--	--	--	---	---	---	---